

建築家 宮本忠長展 建築家の指先に脳がある



会期：2022年10月26日（水）～11月3日（木）8時30分～17時

会場：金沢工業大学ライブラリーセンター1階展示室

協力：株式会社宮本忠長建築設計事務所（長野市）

主催：金沢工業大学建築アーカイヴス研究所 協賛：学校法人金沢工業大学

建築家宮本忠長展ギャラリートーク

日時：2022年11月2日（水）3限（13時15分～14時55分）

（大学院「建築史特論」の授業として実施）

会場：金沢工業大学ライブラリーセンター1階展示室

講師：宮本夏樹（株式会社宮本忠長建築設計事務所 代表取締役社長）

「宮本忠長の建築作品とその資料」

川向正人（東京理科大学名誉教授）

「宮本忠長と小布施～まちづくりと建築家の役割」

宮本 夏樹（みやもと・なつき）

1981年生まれ。41歳。東京都出身。

2005年日本大学理工学部卒。

日建設計を経て12年宮本忠長建築設計事務所に入社。

15年常務取締役兼東京事務所長。

20年代表取締役社長に就任、現在に至る。



川向 正人（かわむかい・まさと）

1974年東京大学建築学科卒業、同大学院進学。1977-79年政府給費生としてウィーン大学美術史研究所留学。1993年東京理科大学助教授、2002年同教授、2005年より東京理科大学・小布施町まちづくり研究所長兼務。2016年定年、東京理科大学名誉教授、小布施まちづくり研究所長。

主たる著書：『アドルフ・ロース』（1987、住まいの図書館出版局）、『ウィーンの都市と建築』（1990、丸善）、『境界線上の現代建築』（1998、彰国社）、『現代建築の軌跡』（2005、鹿島出版会）、『小布施 まちづくりの奇跡』（2010、新潮社）、『オットー・ワグナー建築作品集』（2015、東京美術）、『近現代建築史論』（2016、中央公論美術出版）など。監著に『まちに大学が、まちを大学に』（2014、彰国社）、『Collaboration—アート・建築・デザインの協働の場』（2015、彰国社）など。翻訳に『現代建築の潮流』（1985、鹿島出版会）、『住まいのコンセプト』（1989、鹿島出版会）など。

主たる受賞：2016年日本建築学会賞（業績）、同学会教育賞（教育貢献）。

数多くの建築・まちづくりのワークショップを開催し、現在、長野県小布施町で関東圏8大学が参加する大学間ワークショップ IUW2022『小布施国際避難民村』が進行中。

